

01 血液検査でガンの早期発見が可能（ミアテスト・マイクロアレイ）

今までの検査と異なり、画像検査等では見つけられないような小さな腫瘍のリスク発見が可能となりました。検査方法は血液検査のみで、少量の血液（約5ml）から病気になった時に細胞から出る粒子に含まれる「マイクロRNA」という遺伝子を検出し、疾患の早期発見・早期治療につながる検査です。気になる疾患を選んで検査できます。お問い合わせは健診担当者まで。

02 2021年度防災訓練の報告

9月29日に防災訓練を行いました。日赤愛知医療センター名古屋第二病院（八事日赤）との共同企画ということで10時40分に南海トラフ地震（震度6以上）が発生したという想定でしたが、当院では外来診療の妨げにならないように午前中は病院1階の患者支援コーナーに災害対策本部（災対本部）を設置するにこどめ、全職員の訓練は13時に全館の案内放送で始まりました。まず被災状況の確認が行われ、それぞれの部署で既定のアクションプランに従って順次速やかに状況報告が災対本部になされました。また八事日赤

とホットラインを介して互いの被災者受け入れ状況確認や患者の転院搬送要請・受諾等をシミュレーションすることができました。訓練終了後は反省会を行い職員の安否確認の問題点などを話し合いました。今回は新型コロナ禍中ということで規模を縮小し被災者受け入れのトリアージ訓練などできませんでした。様々な課題が確認できて非常に有意義な訓練となりました。



心臓外科 副院長 田嶋 一喜

03 第38回大腿骨近位部骨折地域医療連携会の開催について

この会は大腿骨近位部骨折の手術後のリハビリ病院との医療連携の交流会です。2008年9月から開催し、その後は年3回開催してきました。しかしコロナ禍で昨年は開催出来ませんでした。今年度は1年ぶりにwebで開催できました。この会は当院の骨折の医療状況の報告、連携病院との患者様の一連のリハビリの経過報告や検討、大腿骨近位部骨折に関連する内容のレクチャーを行っています。当院での2021年6月から9月までの大腿骨近位部骨折の患者様は例年になく多く、104症例の手術を行いました。当院は大腿骨近位部骨折に特化した医療を提供しており、患者様の7割は受傷前と同様の生活様式に戻られ、残り3割の患者

様は高齢で様々な既往歴から機能回復に難渋し連携病院でのリハビリ継続をお願いしています。コロナ禍であって、自宅にこもりがちな高齢な方は廃用の傾向が懸念され、骨折に遭遇する機会とリハビリでの回復が不十分になるリスクがあり、リハビリ連携の重要性は近年より増していると感じます。今後も不安定な社会情勢が続くかと思いますが、連携をより一層強化し患者様のより良い回復を目指していきます。



大腿骨近位部骨折センター 中川 明彦

04 医療安全対策地域連携の取り組み

医療安全管理室では職員が医療の安全と質の向上を意識して医療に取り組むことができるように、日々サポートをしています。その1つに医療安全対策地域連携があります。それは自施設だけでは気付かない問題点などを、他の病院との意見交換や、訪問してチェックを行うことにより、客観的に評価し改善する取り組みです。昨年は、新型コロナウイルス感染拡大により病院間で訪問をする事ができず、紙面での評価となりました。

今年度は新たにWebを活用し、他の病院と対面で共有する問題の検討を行い、活発な意見交換ができました。今後も、常に新しい視点、考え方を取り入れ、患者様が安心して安全な医療を受けることができるよう取り組んでいきたいと思っています。



医療安全推進課 課長 加藤 みな子

聖風 せいふう

2022.1月号

発行責任者/院長 春原 晶代 ●編集/総務課 広報係



〒466-8633 名古屋市昭和区川名山町56番地
Tel : 052-832-1181
https://www.seirei-hospital.org



撮影場所 岐阜県東海市 | 写真提供：用度課課長 幾田 和男

HOT NEWS 聖霊病院 訪問看護ステーション開設

聖霊病院訪問看護ステーションは、令和3年10月1日開設となりました。私自身、訪問看護に携わり20年、この日を非常に感慨深く迎えました。私たちは、「愛と奉仕」の理念のもと、ご本人ご家族の人とに触れ、思いに寄り添い、細やかで丁寧な看護を心がけています。生活の場において「病気や障害があっても、医療機器がある生活でも自分らしく生きたい」「（最期まで）家で過ごしたい、家で過ごさせてあげたい。」という気持ちを大切に、地域の医療・福祉・介護機関と連携しています。訪問看護利用者が望む生活をしていくことができるように、聖霊診療所として創設された地域への思いを看護としても繋いでいきたいと思ひます。「このステーションにお願いしてよかった」と思っけて頂けるように日々活動していきます。



【ステーション特色】
今までの経験を重ね訪問看護の道を究める訪問看護認定看護師資格を持つスタッフ、人生の最期まで希望を可能にするため、看取りは任せて、訪問看護一筋20年看護が好きすぎて仕事とは思っていないスタッフ、新生児集中治療室・救急外来及び各科外来・排尿ケアなど専門性を高めてきたスタッフ等知識と経験を積み（人生においても）日々研鑽しています。24時間連絡対応体制でのサポートはもとより希望を叶えるため、ボランティア団体を含め関係機関と調整しています。時には保険外（実費）で外出等の支援もできるようになりました。訪問看護をご希望の方は、かかりつけの医師担当ケアマネジャー・各区いきいき支援センター等へまずはお相談下さい。



聖霊病院訪問看護ステーション 管理者 高橋 佳香

問い合わせ窓口：担当 高橋
電話：(052) 861-3150 (平日8時30分～17時)

新型コロナウイルス対策について



感染症を予防して健康に過ごしましょう！

冬季は湿度が低く、ウイルス感染症が流行しやすい季節です。2021年12月15日現在、日本では新型コロナウイルスの感染はだいぶ抑え込まれています。しかし、ウイルスはどこかで存在している限り変異を続けています。変異したウイルスの感染力や重症化への影響は感染が流行しないと分からないことが多いです。不安に思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、今まで行ってきた感染対策をしっかり行い感染症を予防しましょう。

<感染対策のポイント>

マスクは不織布マスクがお勧めです。ウレタンマスクや布マスクは鼻や口から出る飛沫を抑える効果も吸い込むことを防ぐ効果も低いので避けた方が良いでしょう。

肌荒れなどで不織布マスクが出来ない方は、布マスクの間に不織布シートを挟むと良いです。鼻が出ているとウイルスを吸い込んでしまうため、マスクは鼻から顎までしっかりと覆ってつける様にしてください。



手洗い・手指消毒はとても大切です。しかし、やったつもりでは効果がありません。手のひら・手の甲、指の間、指先までしっかり手洗い・手指消毒を行いましょ。アルコール手指消毒は15秒以上かけて行うと効果的です。

栄養バランスのとれた食事と質の良い睡眠をしっかりと規則正しい生活でお過ごしください。



マスクを外して声を出している人が大勢いる混雑した屋内空間は避けて過ごしてください。自宅でも部屋の空気の入替えは、少なくとも1時間に1回は行ってください。



感染管理認定看護師 鈴木 京子

部門紹介について

緩和ケア病棟における薬剤師の役割



ホスピス病棟カンファレンスの様子

近年、テレビドラマでも取り上げられたため一般病棟薬剤師の役割をご存知の方もいらっしゃると思いますが、緩和ケア病棟における薬剤師の役割といわれるとピンと来ない方も多いかもしれません。緩和ケア病棟における薬剤師の役割は相談役だと思っています。緩和ケア病棟に入院している患者さんは痛みや息苦しさ、気持ちのつらさなど様々な「困った」を抱えています。

「困った」を解決するために薬剤を使用する場面は多くあります。緩和ケアに使用する薬剤は多岐にわたり、薬剤に関して患者さんからはもちろん、医師・看護師からも「困った」場合に相談を受けています。よく使用する薬剤を使用しても症状の改善が見られない場合に相談を受けることが多く、次の一手として患者さんに合った薬剤を提案する必要があります。そのためには最新の知識や発想の転換などが必要となるため、日々研鑽を重ねています。

また、平日昼に開催されるショートカンファレンスにも参加し、「困った」を少しでも解決できるよう、多職種で話し合っています。今後も緩和ケア病棟における「困った」に対応できるよう、緩和ケアを担う薬剤師として貢献していきたいと思っています。



薬剤部 主任 富田 祐作

病棟における作業療法士の役割



作業療法士 (OT) 一同

私は2020年より当院で作業療法士として働き始め、1年と7か月となります。就職した当時は『ここでやっていけるだろうか』と不安でいっぱいでしたが、先輩方にとっても優しく接していただき、カルテの見方等の基礎的な相談にも快くのって頂きました。また、大学在学中、知識面は学ぶことが出来ていましたが、実務上思うように出来ない事にたくさん出会い戸惑うばかりでした。

しかし、技術面や治療手技・方略などにおいて当院は学びやすく相談しやすい環境であり、安心して業務に取り組んでいます。また、他職種との連携業務にも現在取り組んでいます。週1回の院内デイサービスでは、介護士やボランティアの方と協力してレクリエーション等を企画・運営し、患者様の笑顔を増やすことが出来るように日々奮闘しています。業務の中で特に印象に残っていることは、日常生活動作が出来なくなってしまった患者様に、自助具等を作成し、適用することで目的を成し遂げることが出来たことです。その時の喜びの声は仕事を続けていく中で私自身励みになりました。

これからも患者様から信頼される作業療法士になるために日々研鑽を重ねていきたいと思っています。



リハビリテーション技術科 作業療法士 櫻井 亮祐

院長メッセージ

Message of the hospital superintendent



新年のご挨拶 — 温故知新 —



病院長 春原 晶代

明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症との戦いも3年目になりました。現在のところ感染は比較的落ち着いていますが、オミクロン株など新たな変異株が見つかり、第6波は必ず来るといわれていますので、気を引き締めて、今後も感染対策をよろしく願っています。今年の干支は「壬寅」（みずのえとら）であり、

激しい冬を超えて、芽吹き始め、新しい成長となるイメージだと思います。ポストコロナを見据えて、病院も新しい体制を考えていく時期に入ったと思います。今年度のメッセージについては、「温故知新」としました。病院創立時のシスターたちの思いに立ち返り、地域の病める人に適切な医療を提供するために今年も歩んでいきたいと思っています。